第６号
2012. 12

青梅のにじ

〈発行〉
日本基督教団 隠退教職ホーム　〒198−0052　東京都青梅市長淵2−687
にじのいえ信愛荘　電話：0428−22−2283　FAX：0428−22−2317
運営委員会　須藤　繁　Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp
振替口座番号 00120−3−358467
加入者名：にじのいえ信愛荘

安らぎの家、希望に生きる家となるように

東京教区総会議長・西千葉教会牧師　木下　宣世

過ぐる11月25日（日）は謝恩日でした。生涯を伝道のためにささげてくださった隠退教師の方がたをおぼえ、そのご苦労に心から感謝するとともに、先生方の上に神様の顧みと恵みとが豊かにあるよう祈る日でありました。

私は以前信愛荘時代、その運営委員会に関わって居りましたので、この日を迎えるとどうしても青梅にある「にじのいえ信愛荘」にお住まいの方がたに思いを至さざるを得ません。

年老いていくということはまことに厳しいものです。在荘の方がたが一日一日を心も体も守られて平安の内に過ごされるよう祈る者です。その意味で「にじのいえ信愛荘」はこれからも安らぎの家であって欲しいと願います。

そして今、私たちは待降節を迎えました。教会の暦では新しい歩みを始める時です。キリストの降誕日を待ち望み、同時にキリストの再臨を待ち望む季節です。過去を振り返るのではなく、未来に光を望んで前に進み始めるのです。「にじのいえ信愛荘」の先生方にもそのような時を送って頂きたいと祈ります。「にじのいえ信愛荘」が在荘の方がたにとって希望に生きる家であって欲しいと願っています。

「にじのいえ信愛荘」が安らぎの家、希望に生きる家であるためには全国の諸教会のお祈りとご協力が不可欠です。

私も「にじのいえ」と「信愛荘」が合併して、「にじのいえ信愛荘」になって本当に良かったと思っています。

当時、信愛荘運営委員会が最も心を砕いたことは在荘の方がたの日々の生活が平安の内に守られるようにということでした。そのために職員の方がたは献身的に働いてくださいました。しかし、残念ながら働き手の数が十分ではありませんでした。財政的な問題のためです。

信愛荘の運営のためにはどうしても全国の諸教会及び個人の献金が必要でした。そのために募金委員会を組織し、献金だけでなくチャリティコンサートを開いて資金を得ようと努めたのです。

事情は「にじのいえ」でも同じだったと思います。ですから全国教会婦人会連合を通して献金を募り、チャリティコンサート、バザー、観劇などを催されたのです。

「にじのいえ」と「信愛荘」が合併すれば両方の募金活動の実りが一ヶ所に集中することになります。それによって職員数を増やすことができるようになります。もちろん在荘者数も増えますが、より行き届いたお世話をすることができるようになることでしょう。そのようにして合併がなされたのです。

しかし、この趣旨を生かすためには、今まで以上の努力をして支援活動を続けなければなりません。読者の皆さまにはこれからも「にじのいえ信愛荘」のため、一層のお祈りとお支えをお願いする次第です。

クリスマス特集

新しい歌を主に向かって歌え。
主は驚くべき御業を成し遂げられた。
右の御手、聖なる御腕によって
主は救いの御業を果たされた。
イスラエルの家に対する
慈しみとまことを御心に留められた。
地の果てまですべての人は
わたしたちの神の救いの御業を見た。
（詩編98編1、3）

版画：渡辺禎雄

説教

光は闇の中に

長谷川淳子

「言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。」（ヨハネ福音書1・4～5a）

ここで光とはキリストのこと。主イエスは「わたしは世の光である」また「わたしは光として世に来た」と言っておられます。「光は暗闇の中で輝いている」暗闇とは神に背いている人間の罪、その人間の心です。また、人間の弱さ、醜さ、人を愛せない心、劣等感に苛まれる心、孤独で淋しい心、貪欲な心、傲慢な心などすべてが闇の中にあることだと思います。そして今、社会では毎日のように事件が起きております。子供に対する犯罪、強盗、殺人、傷害事件などこれでもか、これでもかというように起きております。これらの被害者の心も闇に落とされますが、犯罪者の心は最も深い闇に包まれているのです。

それらの心を照らすために、光である主イエスはこの世に来られました。

教会ではクリスマスにキャンドル礼拝をしますが、ローソクのやさしく暖かい光を見つめるとき、主イエスが私たちの心を照らしていてくださることを思います。主イエスは人々の心を、明るく照らすために来てくださいました。それを喜び、感謝し、祝うのがクリスマスであります。

主イエスは「わたしを信じる者が、だれでも暗闇の中にとどまることがないように、わたしは光として世に来た」と言われ、また「わたしの言葉を聞いて、それを守らない者がいても、わたしはその者を裁かない。わたしは、世を裁くためではなく、世を救うためにきたからである。」（ヨハネ福音書12・47）と言っておられます。主イエスは、人々を暗闇から救い出すために来られたのです。

エゼキエル書33・11に「わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち帰って生きることを喜ぶ。立ち帰れ、立ち帰れ、お前たちの悪しき道から。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。」とあります。

神は悪人の死ぬことを喜ばれません。神は悪人を救うために悪の裁きを御子イエスに代って受けさせました。御子イエスはそのために来られたのです。そして、そのイエス・キリストを信じる者の罪を神は赦し、永遠の命を与えてくださいます。それが神の愛であり光であります。

悪人という場合、自分と関係ないことと思うかもしれません。私は幼稚園の5才児に質問したことがあります。「自分はいい子だと思う人」と聞いても、「悪い子だと思う人」と聞いても彼らはどちらにも手をあげません。私が「いい心と悪い心と両方あるのよね」と言うと大きく「うん」と頷きました。5才児にしてこのように分かっているのです。悪人は他人事ではありません。神は悪人を救うために御子イエスを世に送ってくださいました。そして、御子イエスは今も聖霊によって私たちと共にいてくださいます。すべての人を愛してくださっています。ですから、世界中の人がクリスマスを喜び祝うのです。

歳末ものがたり二コマ

加藤　実

写真に撮ってあるわけではないのですが、戦争が終わった年の大晦日の晩に、東京麻布の安藤記念教会の会堂前方左手に据えられた石炭ストーヴを囲むような感じで、森文次郎牧師ご夫妻が6年生のお嬢さんと3人がかりで、同学年のわたしが突然お訪ねしたのを構って下さっている情景が、時折はっきり想い出されます。

1年から4年まで日曜学校に通っていて精勤賞を毎年クリスマスにもらっていたのが、5年の夏から学校の分散集団疎開でご無沙汰となり、6年の8月に大転換となったものの直ぐには帰校・帰宅できず、年内には何とかということだったのです。

そうした学校の情況に加えてわが家の場合、母の出身地なる広島へ縁故疎開しようと5月ごろから準備し始めて直ぐ、父が夏期脳炎で日赤に入院、それが長期化して転居不能となり、更に長引いて10月初めに病死、という特殊事情もありました。そんなことが話されたかどうか分かりませんが、とにかく集団疎開からの帰宅がクリスマスに間に合わなかったことから、そんな情景の展開となったのでしょう。

新制高校1年の秋に受洗し、2ヵ月後の大晦日から身辺多事多端となりました。上の兄が家計遣り繰りの長旅から帰宅してばったり床に就き、数年前からの肺結核の悪化したのが一目瞭然。民生委員のお世話で医療保護が受けられ、入院・手術の手配に駆け回ると同時に、今後は自分の食い扶持だけは自分でと自活を決意。3月から青山の㈱明光陶器へ宿直アルバイトに毎晩出勤。でもそれでは足りずに昼間も働きたいと志願し、9月から社員僅か数人のどん尻で、商品の梱包・納品書作り・大風呂敷で配達・納品などただ黙々と。12月に入るや残業が毎晩、日曜出勤が毎週との搾取強化に憤慨。やむなくアドベント期の主日礼拝は何度も無断欠席、イヴの燭火礼拝にだけ何とか滑り込み。深夜へと続くキャロリングも不参加で、青山までのかなりの夜道を、独り寂しくトボトボとだったか、大手を振って意気軒昂にだったかは憶えていません。

あれはクリスマスを待つ時だったのだ

吉川　幸子

成人してからの信仰とはいえ、既に50年余り経つ。クリスマスも当然その数だけ祝った筈なのに、私にとって、自分の初めてのクリスマスに勝る喜びはない。自分のことで恐縮だが。

兎に角「今日はどうしても教会へ行かねばならない」との思いに駆られ、探し当て飛び込んだのが阿佐ヶ谷教会だった。勿論それまでの経緯はあるのだが。

12月最初の主日礼拝は既に始まっていた。立つも座るも周囲に合わせながら、聖書朗読、そして「説教」になる。ペトロ第二の手紙1章初めの部分。結局何も聴きわけられなかったのだが、7節「兄弟愛に愛を加えなさい」に私は捉えられた。兄弟愛があれば充分ではないのか。これに加える愛とは何か、アガペーなど知る由もない。

聖書は、キリスト教は、何を言いたいのか。これでは来週も来て聴かなければならない・・・。

もう一つ。週報の定期集会案内に「求道者会」があった。初心者向けであろうと出席してみることにする。温かく迎えられたのをいいことに毎週通ってしまった。あとで分かったのだが、12月の求道者会はクリスマスの受洗者準備会に切り替わっていたのだ。そのために「日本基督教団信仰告白」のお話しだった。説教とは異なる、また、全く初めて聴く言葉だったが、この時「主を畏れることは知恵の初め」と記されている箴言の言葉に気付いた。そして、私は教会へ来たことが間違いではなかったと思った。しかし平気で出席していたのが恥ずかしい。あの時「あなたは来年から求道者会にどうぞ」と言われて当然だったのに。　主日の礼拝だけでなく、あの「受洗準備会」への厚かましい参加が許されなかったら、今の「私」があっただろうか。

初めてのクリスマス礼拝は会衆の中で満ち足りていた。高価な真珠一個をみいだした商人のように。

「神様はご用のためなら人の一生をねじ曲げる」と言われた当時の牧師の言葉が忘れられない。

Essay

にじのいえ信愛荘に導かれて

飛田　悦子

2年前の6月、千葉県館山市の「にじのいえ」から、この「にじのいえ信愛荘」に入居した日のことは、今も忘れることはありません。

年を取って住まいを代わると言うことは、ボケの原因にもなると言いますから、委員の方々は随分気を遣ってくださったようでございます。

引越しの当日は横浜のホテルに一泊し、翌日荘に到着しました時、玄関で入居しておられる方々の笑顔が、「にじのいえ」から来た私たち5名を迎えてくださいました。そして、定められた部屋には、今までと少しも変わらないように家具が置かれてありました。

山すその静かな部屋に座って「此処が私の終のすみかになるのでしょうか」と神様に祈っていますと、思わず涙が出て参りました。

日本間ではないので、敷物を用意して、座っての生活が始まりましたが、だんだん立居振舞ができにくくなり、「どっこいしょ、どっこいしょ」とかけ声をかけて行動して居ります。

朝7時30分からの朝の礼拝を当番制で行って、讃美歌、聖書の拝読、そして祈りを合わせます。私たちの小さな祈りが全国の教会に届き、各教会で祈られてささげられる献金によって、私たちの現在の生活があることを思います時、心からの感謝とともに、とりなしの祈りの大切なことを覚えて、朝の時間を大事にして居ります。

昼食は、外出している人もありますので、自由に致します。炊事の方がいつも、老人のために心を配ってくださって居ます。

花見時には外に見物に連れて行ってもらいます。月に一度交わりの時間があり、少女時代の唱歌を思う存分うたいます。

多くの教会関係の方々の訪問もあって、一緒にお茶を頂く時間もうれしいものです。

お風呂は一日中沸いて居ますので、それぞれの時間に豊かな入浴の時を持って居ります。

夕食の後は各自が部屋で過ごしますので、静かな静かな夜の時間を主のお守りの内に過ごし、朝を迎えています。

私たち入荘者が、時に体の不調を覚える時には、すぐにかかりつけの医者に連れて行ってもらいます。また、月に一回の健康相談の時もあって、ありがたいと思って居ります。

昨年11月、宮本信一牧師が召されまして、多目的ホールでご葬儀がおこなわれました。

私は静かな、然し暗くないお式に参列して、やがて私もこのようにして送って頂くのかなあーと思いながら祈って居りました。

今春から裏庭が美しい花園に整備されました。一坪毎にレンガで区切られ、名札がさされている花壇に、毎朝手入れをするために出て来られる人、私のように、草一本も抜かずに美しい花を見ながら散歩する人、それぞれです。

裏山を借景にしてよい庭園になりました。備えられている椅子に座って、これを眺めていますと、「我、山に向かいて目をあぐ、わが助けはいずこより来るや、わが助けは天地を創り給える主より来る」(詩編121編)の聖句が心に浮かんでまいります。

週毎の礼拝は、館の中の礼拝堂で守りますので、雨の日でもありがたいです。

只今23名の者が、職員のお世話を頂いて、心安らかに日々を送って居ります。　感謝

―聖日礼拝当番の日に―

入舞の説教をおえて　アーメン
あげた手を
しっかり上げて祝祷す

この朝が
最後かと思いつつ講壇に立つ

―この館で三年目の秋を迎えます―

裏庭の小花をたまいし友のあり
中庭に咲いた小花があいらしい
小花の名「秋明菊」と言うそうな
中庭に咲いた小花にも秋の風

近況報告

荘長　有馬　歳弘

今年の夏は特別に暑かったように思います。在荘の先生方も大変だったと思いますが、皆さまお元気で、守られました。多くの方々のお祈りとお励ましのあったことを感謝申し上げます。

自然に囲まれている「にじのいえ信愛荘」、春は若葉の柔らかい色づきに癒され、夏は新緑に憩いを覚え、これからは、秋の爽やかな空気に健康を感じます。暑い夏は外出をひかえていた人も、周りの家の庭に咲いている花を眺めたりしながら散歩も楽しむことができます。

荘の中に造られた庭園も、手入れされた草花が根付いて美しく咲きました。新しく秋の草花が登場しています。食堂から見える庭は少し地味な感じですが小さな花が植えられて喜ばれています。玄関には庭から切り取られた花がいつも美しく飾られています。在荘のどなたかがそっと奉仕してくださっているのでしょう。

4月から日本給食サービスによって、調理された食事が出されています。食材や味付けについてはいろいろな感想があります。毎月約1回、給食会議をしています。在荘の中からテーブルごとの代表者と日本給食サービスの責任者、調理場で働く方々を交えて意見を交わしています。できるだけ要望に応えられるように努力しています。

調理場の方のサービスで、思いがけない旬のものも添えられたりして和やかです。

〈いくつかの出来事〉

前任者の朝岡健一氏から、引き継がれた濱田繁事務長は大いそがしでした。通常の会計事務だけではなく、営繕に関することも多くありました。酷暑の夏にエアコンが故障して新設しなければなりませんでした。ところが、電気容量がパンク状態のため、電力会社の指導をいただきながら、２００Ｖの配線工事をすることで難局を乗り越えました。

次に、Ａ棟のお風呂の地下に敷設されているパイプに穴があいて水漏れが発生しました。暑い中、Ｂ棟のお風呂を共用で使うことで辛抱していただき、工事をすることができました。その他、調理場の冷凍庫が使えなくなって急いで新しくしたりです。

〈施設長の着任〉

10月より萩生田 明牧師が施設長に就任されました。頼りになる施設長で、嬉しく思っています。

〈在荘者のご様子〉

・影山譲・邦子先生ご夫妻は入院はそのままで、住所を家族の住所に移されました。そのため退荘されました。

・和田信子先生は、千葉県富津市「望みの門」に入所なさいました。

〈来訪を感謝〉

教区婦人委員会、壮年委員会、多数の教会によって奉仕やお交わりをいただいて感謝しています。

にじのいえ信愛荘訪問を実施して

運営委員　飯澤　弘子

全国教会婦人会連合は、にじのいえ信愛荘を支えることを活動方針に加えています。具体的な働きは、にじのいえ信愛荘協力委員会が担い、その一つに荘の訪問があります。実際に訪れることにより、理解が深まり、祈りと支えの輪が広がることを目指しています。

去る9月28日、6教会から26名の参加者と、奉仕部、協力委員を加え、計35名が訪問、午前中はボランティア作業を行ない、午後の交流の時間は、入荘の方々とスタッフが加わっての集まりとなりました。

2012年、婦人会連合では、1月と6月に全国規模の委員会が開かれ、その機会を利用して、北海道から沖縄に至る各地の委員が訪問しました。入荘者は、全国各地の任地を経ておられ、よい交わりの時となりました。にじのいえ信愛荘が広く、多くの方の祈りに覚えられ、支えられるよう願っています。

（婦人会連合にじのいえ信愛荘協力委員会委員長）

訪ねて実感！青梅に恵みあり

西谷美和子

全国教会婦人会連合（以下婦人会連合）の機関紙『教会婦人』7月号の〝一粒の麦コーナー〟に、「にじのいえ信愛荘の見学&ボランティア」（9月28日［金］10時30分～15時開催）参加募集の記事に呼応して、大宮教会・婦人会では、疋田勝子牧師はじめ7名が参加することに。

当日は、エプロンを持参したものの、早くに来られた他の教会婦人たちが奉仕を始めており、私たちの出る幕はなかったです。カーテンを洗濯し、ほころびを直すなど、手は足りているようでした。

そんなわけで、大宮グループは、到着するやいなや、飯澤弘子協力委員長のご案内で、新館から見学することになりました。入荘の方々にごあいさつをすると、異口同音、「ようこそ、我が家へ」、といった感じで笑顔が返ってきます。27名の定員のところ、現在23名が入荘されています。各部屋にトイレがあり、ベッドや家具も置け、収納スペースも充実しています。食堂の窓からは、造園業者の手による趣向を凝らした庭が望め、憩いの場となっていました。主日ごとに礼拝が捧げられる、ステンドグラスの光が差し込む礼拝堂も見せていただきました。

午後は、食堂の奥にある八角形の多目的ホールで親睦会が開かれ、入荘の方々14名が来られました。参加者は、野方町教会、田園調布教会、柿ノ木坂教会、港南希望教会、神奈川教会、大宮教会から計26名。最初に讃美歌352番を賛美し、有馬歳弘荘長のご挨拶、続いて参加者、入荘者の自己紹介。人に歴史ありと言いますか、信仰の大先輩のお話は一つ一つに重みがあり、感銘を受けました。その後、祈りと聖書日課によって始まる一日の暮らしぶりなどをお聞きしているうちに、あっという間にお開きの時間となってしまいました。懐かしい方との再会を喜ぶ人、同じ教会の出身だったと分かって話が弾んでいる人、さまざまな出会いがテーブルのそこかしこに見られます。

主にある交わりを通し、諸先輩方の信仰に触れ、神の家族の一員であることをあらためて実感できました。そして、協力委員はじめ荘を支えておられる多くの人たちの愛情に包まれて、牧師およびそのお連れ合いの毎日があることに胸がいっぱいになりました。これからも祈りつつ、そのお働きに協力できたら、と思いを新たにした一日でした。

（大宮教会員）

「にじのいえ信愛荘」教団センターの施設位置づけ明確に

運営委員　鈴木　功男

【センター設置規則制定】

第37総会期第6回常議員会において、「センター設置規則」が承認されました。これにより、設置規則発効から1年以内を目途に、各センターは細則を定め、新たな基準による教団センターとしての体制を整えることになりました。

【これまでの経過】

2008年第35総会期「教団機構検討特設委員会」答申に基づいて、センター明確化推進小委員会が設置されました。

この委員会の目的は、教団宗教法人規則第30条第2項による18センターの法律上の責任と実態との乖離を整理、実質的に教団のセンターとなるための条件を提示し、明確化を推進することにありました。

委員会は、各センターの歴史的背景と主体性を尊重しながら、教団のセンターとして維持する立場以外に、教団から離れる形態として、4つの選択肢を提示して具体的協議に入りました。宗教法人化、法人化（財団、社団）、会社化に加えて、人格なき社団。

最終的に教団センターとして位置づけを明確にしたのは、「にじのいえ信愛荘」、「愛知老人コミュニティーセンターまきば」など5カ所となりました。

【センター設置規則・細則】

設置規則は言わば本則というべきもので、全センター共通の基本規則。個々のセンターは、それに基づく細則を定めて運営されるという形です。

【にじのいえ信愛荘】

にじのいえ信愛荘の細則は、従来の規則の骨子を受け継ぎ、かつ教団のセンターとしての性格を明確に織り込んだ形になっています。

大きな特徴としては、委員・監事はすべて常議員会において選任されるところにあります。

運営母体である、教会婦人会連合4人、東京教区3人、西東京教区3人、教団議長指名5人の計15人で運営委員会が構成されることになります。

（常議員・センター明確化推進小委員会委員）

施設長としての歩みを始めて

施設長　萩生田　明

固有の歴史と伝統を持つ「信愛荘」と「にじのいえ」の二つが、主の奇しい御業によって一つとされ、新たな歩みを始めてから2年半が過ぎました。これまでの全国の諸教会・伝道所および教会婦人会連合・東京教区・西東京教区のみなさまの祈りと支援と奉仕を感謝申し上げます。おかげさまで、毎朝の礼拝に始まる荘員および職員の生活が平安のうちに守られております。

千葉県館山市に「にじのいえ」が誕生した1973年および前年の夏、当時久ヶ原教会（東京教区南支区）の一青年として、草刈りのワークキャンプに参加したとき、リーダーを務めた原田正枝姉（創設期教会婦人会連合委員／にじのいえ運営委員／久ヶ原教会CS校長）が、隠退教師を大切にする教会となるよう熱心に祈っておられた姿を思い出します。

このたび私は、多くの労を要した合併期に施設長としての重責を果たされた横山利江姉の後任に命じられ、この10月に着任いたしました。

運営委員会の下、青梅の地にあって、「にじのいえ」と「信愛荘」の良き伝統と、これまで培ってきた知恵に学び、荘員を大切にし、祈りをもって職務に励みたいと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（西東京教区教務教師）

あとがき

クリスマスおめでとうございます。

「青梅のにじ」第6号をお届けします。ご執筆くださいました皆さまには、心より御礼申し上げます。「青梅のにじ」が全国の教会に届けられ、「にじのいえ信愛荘」を覚えて、皆さまにお祈りいただき感謝しています。

東日本大震災の被災地、被災された方がたの上に、主の大いなる愛が示され、クリスマスの恵みが豊かにありますようお祈り申し上げます。（成松　三千子）

荘日記

荘長補佐　横山　利江

●2012年5月
1日(火)スタッフ会議
4日(金)宿直奉仕砂田巳智子委員
7日(月)定例お茶会(19名)・給食会議
8日(火)めぐみ幼稚園園長逢坂菊枝先生逝去(葬儀13日)
9日(水)小金井緑町教会婦人会(11名)
10日(木)吉田トシ師青梅総合病院退院
11日(金)宿直奉仕浅見多恵子姉
15日(火)避難訓練
18日(金)宿直奉仕北島和子姉
24日(木)井上医院健康診断
25日(金)宿直奉仕成松三千子委員
28日(月)誕生会・相談会
29日(火)ヴォーリズ2年点検
30日(水)東村山教会(15名)
31日(木)河内信男兄事務長補佐として就任

●2012年6月
4日(月)定例お茶会(23名)
5日(火)スタッフ会議
宿河原教会(6名)
影山譲師・邦子夫妻退荘
8日(金)宿直奉仕金井弓子姉
10日(日)河辺伝道所花の日合同礼拝(35名)
11日(月)給食会議
13日(水)吹上菖蒲園花見、小河内ダムドライブ(8名)防災頭巾、非常持ち出し袋配布
15日(金)宿直奉仕辻哲子師、(祈祷会・任意参加6名)
16日(土)A棟エレベーター点検
20日(水)婦人会連合・沖縄、京都、北海教区委員(12名)
21日(木)井上医院健康診断B棟外壁補修工事(22日迄)
22日(金)宿直奉仕石井幸子姉
25日(月)誕生会・相談会避難訓練
27日(水)食堂横雨水タンクホール裏へ移設、水道蛇口取付
29日(金)宿直奉仕会田怜子姉

●2012年7月
2日(月)定例お茶会(21名)
5日(木)経堂緑岡教会(5名)
6日(金)宿直奉仕竹田佳地子姉
9日(月)給食会議
10日(火)スタッフ会議
11日(水)A棟エアコン3台修理
13日(金)宿直奉仕関口朝子姉
16日(月)岩戸五郎兄庭木剪定奉仕
18日(水)A棟礼拝堂、居室エアコン修理、地下タンク点検
20日(金)宿直奉仕池田節子姉
26日(木)井上医院健康診断
27日(金)水道管漏れのためA棟風呂使用不可
宿直奉仕浅見多恵子姉
30日(月)和田信子師退荘千葉県富津市「望みの門」へ誕生会・相談会、避難訓練
31日(火)A棟居室エアコン交換

●2012年8月
3日(金)宿直奉仕小作聖子姉
6日(月)給食会議
7日(火)スタッフ会議
10日(金)宿直奉仕阪口和美姉
13日(月)水漏れ個所特定工事
16日(木)浜松よりフルート演奏奉仕(安間夫妻)
17日(金)宿直奉仕辻哲子師(祈祷会・任意参加8名)
18日(土)エレベーター点検
20日(月)A棟風呂入浴可能
23日(木)にじのいえ信愛荘運営委員会(荘にて)
24日(金)宿直奉仕石井幸子姉
27日(月)誕生会・相談会避難訓練
31日(金)宿直奉仕北島和子姉

●2012年9月
3日(月)定例お茶会(21名)
4日(火)スタッフ会議
7日(金)宿直奉仕会田怜子姉
8日(土)三軒茶屋教会聖歌隊(20名)
11日(火)給食会議
14日(金)めぐみ幼稚園母の会清掃奉仕(12名)と交わり
20日(木)井上医院健康診断
21日(金)宿直奉仕金井弓子姉
24日(月)誕生会・相談会
26日(水)避難訓練(夜)
28日(金)婦人会連合訪問と奉仕、交わりの集い(32名)
宿直奉仕石井幸子姉

●2012年10月
1日(月)定例お茶会(20名)
2日(火)スタッフ会議
5日(金)宿直奉仕吉田和子姉
8日(月)井草教会清掃奉仕(18名)
10日(水)萩生田明新施設長就任
＊岩戸五郎兄日曜日宿直月3回
＊和久井義男兄7月より毎週火曜日宿直奉仕
＊河内信男兄6月より毎週水曜日宿直奉仕
＊野口真兄8月より毎週木曜日宿直奉仕